

大谷學報

第 94 卷 第 2 号

2015年 3 月18日発行

本願寺大坂退去の意義……………	川端泰幸 (1)
『往生拾因』に記される五逆についての一考察……………	難波教行 (27)
二〇一四年度 研究発表会 発表要旨……………	(55)
彙 報……………	(65)
学位論文審査要旨……………	(121)
忘れられた近代の知識人「金九経」に関する調査……………	孫 知慧 (91)
21世紀の公共図書館における……………	
図書館員とその養成に関する考察……………	山本貴子 (43)
大城善盛……………	
国語科教育における教材研究の方法……………	望月謙二 (23)
——「海をかつとばせ」を中心に——……………	
関連性理論による幼児のことばの分析……………	下道省三 (1)

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第九十三巻 第二号

死について……………池上哲司

久多の木造五輪塔……………宮崎健司

二〇一三年度 研究発表会 発表要旨

彙 報

学位論文審査要旨

保育所における

社会的養護機能の再検討……………黒澤祐介

小学校社会科における問題解決学習…高山芳治

——永田時雄の「西陣織」(小5)の分析と考察——

大谷学報 第九十四巻 第一号

片仮名本『因果物語』の姿勢……………中川眞二

——一向宗関係因果譚を手がかりとして——
真影の図画と『教行信証』……………難波教行
永劫回帰の思想の体現について……………木原英史

二〇一四年度 春季公開講演会講演録
できなくなつてはじめてできること……………鷲田清一
挫折が希望にかわるとき……………玄田有史

二〇一三年度
修士論文・卒業論文・卒業研究題目一覧

彙 報

現実性の現象学……………竹中正太郎

——『イデーン』における自我論をめぐる——
過食を引き起こす否定的感情に関する
実証的研究……………田中久美子

アメリカにおける

CCSS(Common Core State Standards)と
学校図書館界……………山本貴子

Schreiben als Stütze

Über den Umgang mit Schuld bei Walter Kempowski
……………Albrecht Decke-Cornill

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles:

- The Analysis of Early Childhood Words by Relevance Theory
..... SHIMOMICHI Shōzō (1)
- Method of Teaching Materials Study in Japanese Language Education:
Focusing on “Umi wo kattobase”..... MOCHIZUKI Kenji (23)
- Public Librarians and Their Education in the 21st Century
..... YAMAMOTO Takako (43)
..... ŌSHIRO Zensei
- An Investigation Regarding the Forgotten Modern Intellectual Kim Ku-kyung
..... SON Ji-Hye (91)

Examination Report of Theses Presented for the Degree of Doctor of Literature
..... (121)

-
- Reports (65)
- Résumés of Papers Presented at the Otani Society Annual Meeting 2014
..... (55)

Articles:

- A Study on the Five Grave Offenses Described in *Ojo juin*
..... NAMBA Noriyuki (27)
- The Significance of Honganji's Leaving Osaka KAWABATA Yasuyuki (1)

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

(設置)

第1条 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に大谷学会(以下「本会」という。)を置く。

(目的)

第2条 本会は、本学の学術研究の推進及びその成果の公開を目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 「大谷学報」の発行
- (2) 「大谷大学研究年報」の発行
- (3) 研究会及び公開講演会の開催
- (4) その他必要と認める事業

(構成)

第4条 本会は、次の者をもって構成する。

- (1) 教育職員(専任職員及び契約職員)
- (2) 本学の学生
- (3) 本会の趣旨に賛同し、役員会において承認された者

(第2項は一部修正し、第1項第3号に移行)

(役員)

第5条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 監事
- (4) 委員

(会長) 会長は、大谷大学長が当たり、本会を代表する。

(副会長)

第6条の2 副会長は、学監・副学長が当たり、会務を統理する。

2 副会長は、第3条第1号及び第2号の編集兼発行者となる。

(委員)

第7条 委員は10名とし、教授会において互選する。

2 委員は、企画、編集、出版等の会務に当たる。

3 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(庶務)

第7条の2 会務を円滑に遂行するため、庶務を置くことができる。

2 庶務は、本会委員のうちから、会長が委嘱する。

(監事)

第8条 監事は2名とし、教授会において互選する。任期は2年とする。

2 監事は、本会の会計を監査する。

(研究発表等)

第9条 会員は、本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」及び「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

(会費)

第10条 会員の会費は、年額四〇〇〇円とする。ただし、学生会員は二〇〇〇円とする。

(経費)

第11条 本会の経費は、会費をもつてこれに当てる。

2 本会の経費については、助成金を受けることができる。

(所管)

第12条 本会に関する事務の所管は、教育研究支援部教育研究支援課とする。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、会長が決定する。

(付則)

1 この規程は、一九八一年四月一日から施行する。

2 一九六二年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

付則 この規程は、一九九三年四月一日から施行する。

付則 この規程は、一九九五年六月一日から施行する。

付則 この規程は、二〇〇二年六月一日から施行する。

付則 この規程は、二〇〇六年十一月八日に一部改正し、同日から施行する。ただし、第3条第1号については、第86巻第1号から適用する。

付則 この規程は、二〇一二年二月一日に一部改正し、二〇一二年四月一日から施行する。

付則 この規程は、二〇一四年四月一日に一部改正し、同日から施行する。

(大谷学会委員)

阿部 利洋	石本 哲子
加藤 文雄	國中 治
ダシユ ショバラニ	東館 紹見
三木 彰円	山本 貴子
采翠 晃	渡部 洋

大谷学報第九十四巻第二号

平成二十七年(二〇一五年)三月十八日発行

大谷学会

編集兼 水島 見一

発行者 大谷 学会

発行所 京都市北区小山上総町
千六〇三八三 大谷大学内

振替 〇一四〇七一一八三九三番

印刷者 田中 雅博